

ICT端末を活用する一方で、児童は記事の音読も欠かせない



笠野原小学校（鹿屋市）

端末活用し学び合い

実践校になり2年目。実践校に読み取り、情報を生かす力・社会とつながる力を育てる」との目標を掲げる。今年度はICT（情報通信技術）端末の積極的な活用を試みた。

4年生は国語の単元「新聞を作ろう」で端末が活躍した。各自が取材、執筆した記事や写真を整理担当の児童がソフトを使ってレイアウトした。

「好きなレクリエーションは何？」といったアンケート結果を棒グラフ化するなど、端末の機能を使いこなし、班も多かった。約10時間かけて仕上げた新聞を読み合っ、端末で感想を交換した。担当の山之内勲教諭（39）は、子どもたちの電子機器への対応の早さには驚くばかりだという。

一方で、思考を整理する力を育てるためには紙と鉛筆を効果的に使う場の設定も欠かせないと感じている。記事の音読も重視している。（山野俊郎）

新聞が読めるNIEコーナーを担当している生徒会のメンバー



山田中学校（始良市）

意見発表し表現磨く

実践校2年目。新聞に親しむ段階から一歩進め、記事内容に興味を持ち、意見が述べられることを目標に取り組んだ。学習支援サイト「すくーる373る」を新たに活用し週1回、タブレット端末で新聞を読んでいる。印象に残った記事を付箋に書き出し、廊下に閲覧台を設置した「NIEコーナー」に全生徒分を掲示している。

感想をタブレットでまとめ、そのままオンラインで本紙「若い目」に投稿、掲載されたケースもあった。担当の内村加代子教諭（53）は「思考力や表現力を磨く機会になる。投稿する生徒を増やしたい」と語る。

文化祭では「すくーる373る」で検索した新型コロナ関連の記事を利用し、差別をテーマに劇をつくり上演した。生徒会のNIE係が全校朝会で「今週のトピック」を紹介、意見発表する活動も続けている。（江口淳司）

鹿児島県内で2021年度にNIE（教育に新聞を）実践校に指定された13校が新聞を活用した授業などに取り組んだ。各校が進める活動や授業の様子を紹介する。

かごしま

NIE実践校



枕崎小学校（枕崎市）

はがき新聞 活用多彩

実践校3年目。4～6年生が気になる記事を発表する「てきばきプレゼン」、新聞投稿、閲覧台の設置などさまざまな取り組みを展開してきた。中でも力を入れるのが「はがき新聞」づくり。

新聞記事を読んだ感想や、授業で学習したことを一枚のはがきの中に、新聞風にまとめる。

1月中旬、6年1組では戦争をテーマにはがき新聞を作成。児童同士で読み合い、「原爆について書いていてすごいと思った」「見出しが太く濃く書かれて分かりやすい」など、優れた表現をほめ合った。大工園海心君は「簡潔に書く練習にもなる」と話す。

はがき新聞の校内コンクールを開き、4～6年は学年掲示板に張り出し、意欲を高めている。平川貴之校長（54）は「紙が小さいので、低学年の子にも負担感が少ないのいい」と話した。

（藤本祐希）